

## 第3回北・北海道中央圏域 定住自立圏共生ビジョン懇談会議案顛末

・ 日 時 平成24年3月2日(金)  
午後3時30分～午後4時30分  
・ 場 所 名寄市役所 4階 大会議室

### 1 開 会

司会：土別市進行

### 2 土別市長あいさつ

挨拶：牧野市長

### 3 座長あいさつ

挨拶：千葉副座長（清水池座長欠席のため）

### 4 議 題

#### (1)パブリック・コメントの実施状況について

◆募集期間 平成24年2月1日(水)～3月1日(木)

◆公表方法

◇名寄市

各情報公開コーナー(名寄庁舎、風連庁舎、智恵文支所)、ホームページ

◇土別市

市役所本庁舎1階情報公開コーナー、朝日総合支所、各出張所、ホームページ

◆提出方法 持参、ファックス、郵送、電子メール

◆提出件数 0件

#### (2)北・北海道中央圏域定住自立圏共生ビジョン(案)について

説明：土別市説明 ⇒ 質疑なし

#### (3)その他

・定住自立圏共生ビジョン(案)の事業費は平成23年度予算ベースとなっているため、今後、事業費の精査を行い、製本したものを3月中に各委員へ配布する。

・平成24年度の定住自立圏共生ビジョン懇談会は、共生ビジョンに変更がない場合も進捗状況は報告させていただき、開催時期は年末、または年度末を想定している。共生ビジョンの変更や新たに協定を締結する場合は、座長、副座長と日程調整させていただき、必要な時期に開催する。

・最後に各委員から一言ずつ感想や意見をいただいた。 ⇒ 別添

### 5 名寄市長あいさつ

挨拶：加藤市長

### 6 閉 会

(別添)

(委員)

当初、定住自立圏構想とは何かわからなかったが、お勉強させていただく中で、この地域における細かいところまで手を繋いでいかなければならない時代になったのかなと思った。先ほどのパブリック・コメントの提出件数が0件というのは、完全なものだから意見がないのか。それとも地域の方々の関心がないのではないかと考えられる。今後、地域に持ち帰り、何らかの形で認識を持っていただき、協力し合っていくことに力を注いでいきたい。

(委員)

救急医療は重要な意味を持っていると思っている。当町の場合は救急車も土別市にお世話になっている。医師の確保も含めて今後も情報交換を行い、良いパートナーシップをとっていきたい。今後、形骸化にならないよう、ここに示されている内容を地域に持ち帰り、いろいろと話をしていきたい。

(委員)

当町で新しい取り組みをすることになった。当町にとってはエポックメイキング(画期的)なことであり、近隣町村にはお世話になるのではないかと考えている。交通に関しては名士バスにお世話になっている。医療関係では名寄市にお世話になっている。このことを含め、当町は近隣の市町村にお世話になっている状況であり、今後もお世話になるのでよろしく願いたい。

(委員)

定住自立圏共生ビジョンは、今後、実際に動いていく中で振り返りやモニタリングがされて、さらに良くなっていくものと思っている。地域密着型の福祉サービスがあるが、違う町村でも利用していけるような環境づくりができればいいと考えている。

(委員)

当町では高齢者が35%を超えており、限界集落に突入している状況もある。そうした中、定住自立圏はこれから大きく成果を上げていくシステムではないかと思う。名寄市・土別市では、既にこうしたビジョンは現実的にスタートしているが、今回、これをしっかり精査し、文言化したことは大きな前進だと思っている。今後、スムーズにより良く流れていくかは、研鑽を進めていく中で出てくるものと思う。事務方の皆さんにはがんばってやっていただきたい。

一村一品の問題については、その地域でなければならない。一本化や2~3つに固めるという話にはならないと思う。やはり地域でなければ、名産としては成り立っていかないという苦しいところもある。

(委員)

最初の会議で「複数の圏域に加盟することは可能か」という話があった時に、内科と外科の話がされて、内科同士の連携は難しいという話があって違和感があった。当町の面積は広く、地区ごとによって中心地がバラバラな町である。そうした中で内科同士の連携が難しくなれば、複数の自治体をお願いしているのが現状であり、定住自立圏構想と合うのかなという気がした。そうした案件で関わっている町は全国でもあると思われるため、総務省とのやりとりではそうした町があることを話題にしてほしい。

(委員)

稚内市の定住自立圏に入っているが、今回、北部の方に入らせていただいた。当町の生活圏は稚内市より名寄市の方に向いている。医療の部分では名寄市にすがっている。先日、稚内網走間の国道 238 号が半日ぐらい通行止めになった。こちらに来るには音威子府の咲来線しかない。そうした部分では交通網の確保が一番心配している。一日も早く、交通網の確保・整備ができればいいと思っている。

(委員)

当町も医療の関係が一番大きな問題となっている。昨年、胆のう炎で病んだ時、名寄に搬送されそうになったが、消化器の先生がいなくなるため、稚内市の病院に搬送された。先日、消化器の先生は確保できたわけだが、あらゆる場面で名寄にお願いせざるを得ない状況がある。それに伴い、道路の確保も非常に大きな問題である。高規格道路のような交通網が確立していればいいと感じている。

(委員)

医療の問題が町として重要な課題だと認識している。平成 24 年度からの総合計画の策定に携わってきたが、そこで議論されたのも医療の問題である。町が成り立っていくためには医療が欠かせない最重要な課題である。定住自立圏共生ビジョンをもとに実効があがるよう、各町村が連携しながら進んでいければいい。

(委員)

先ほど各町村のお話を聞いていると医療の問題が大きいと感じた。士別は士別なりの医療に対する考え方や問題があり、名寄にお願いすることはお願いする、士別で得意な分野は士別という話だが、名寄にお願いする部分はたくさんあると思う。共生ビジョンはみんなが助け合って生活していくものだと思う。これを機に、各市町村が問題に対して助け合っていくことが目標だと思っている。今後も皆さんでお話していきたい。

(委員)

前回の懇談会でも話をさせていただいたが、13市町村の観光協会が実施するイベントの集約化を図り、日程が重複しないようコントロールタワーを機能的に持てるような取り組みがされれば、効果的だと思っている。さらに地場製品の開発では、今後、新製品が開発された時には圏域の中でお互いに共有し合い、お互いに付加価値をつけていくことが大事なと感じた。

(委員)

定住自立圏共生ビジョンというすばらしい計画はできているが、住民の方々が理解できていない状況ではないかと思う。住民の方に広く周知する方法、良い意見をいただくことがこれから必要ではないかと思う。

(委員)

前回の懇談会で質問させていただいたが、人口は士別市よりも名寄市の方が多いが、特別養護老人ホーム等々の施設数は名寄市の方が少ないと感じる。入所できない人もいるし、見ていただけない方もいるため、13市町村で受け入れていただくことは可能か？という質問をさせていただいたところ、大丈夫という回答があったが、歳をとってくると心配になる。24 時間とは言わな

いが、老老介護にならないようにお世話をしていただける場所を増やしていただけないか。13市町村で受け入れることはできると言っているけれども、交通の便もあるのでそうした場所を増やしていただきたい。

3カ月に一度はコレステロールの検査に行っているが、消火器内科の先生が一斉になくなった。それで循環器内科で診ていただいているが、今回、消化器内科の先生がいらっしまったので力強く感じている。名寄市立病院はあまり評判がよくないと耳にするが、元旦に孫の調子が悪くなった時に病院に駆け込んだところ、とっても親切で本当によく診てくれて安心したと嫁が言っていた。名寄も見捨てたものではないので、皆さん、今後ともよろしく願いたい。

(委員)

この会議に参加させていただき、さまざまな分野、たくさんの分野で協力し合っていかなければならないと感じた。今後、さらに柔軟な思考、誰も考えつかなかったことが必要になってくるだろうと感じる。多くの方々の意見を集約していくことが必要だと思う。

(委員)

私は観光協会という立場で参加させていただいている。前回の懇談会でもお話させていただいたが、イベントやいろんな情報の共有をさせていただき、北・北海道エリアに圏外からお客さんを呼ぶこと、より多くの人たちに圏域に来ていただくことをやっていきたい。名寄市でも観光振興事業が立ち上がってくる。行政とも連携を取って私たちもがんばっていききたいと思う。

(委員)

公共交通機関の立場で参加させていただいている。地域住民が利用しやすい交通機関として、関係市町村と連携してやっていきたいと思うので、これからもよろしく願いたい。

(委員)

皆さんの話を聞いて、この圏域が一つになったような感じがした。車社会も発展したし、道路の整備も整ってきている。通勤・通学、買い物、医療など、広域的な事業が取り組まれている。これからは集約と選択であり、人口が減少していく中でお互いの持っているマチの特性を活かしながら連携していくことが求められていると思う。お互いに情報交換しながら、お互いに意見交換しながら、お互いに支え合いながら、広域的な活動ができればいいと思っている。来年、再来年、さまざまな問題や皆さんから意見をいただきながら、北・北海道中央圏が皆さんの温かい思いで発展されることを期待する。